

MACF 礼拝説教要旨

2023年11月5日

「あなたは今日わたしと一緒に」

聖書箇所

ルカによる福音書 24章

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。

「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」

40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。

41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」

42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。

43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

十字架にかけられたイエス様に対する憎悪の感情や非難中傷は聞くに耐えないものだったと思いますが、そんな中でイエス様と両隣の十字架にかけられた犯罪人とのやりとりが記録されています。

自分を十字架に追いやるような心をもった人たちへの「赦しの祈り」のあと、今度は実際に犯罪を犯した人との対話が書かれているのは、イエス様がどれほど「悩む人たちと連帯を深めているか」を理解するのに有益な記録です。

1) あざけり

最初に登場するのは

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。

「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」

という発言です。

十字架という肉体的な痛みの極限の中で、犯罪人のひとりが「お前がメシアなら、自分と俺たちを救ってみろ」と罵りながら語ります。

要するに、お前が神であるなら自分を救えるはずだ、そのうえ、こんな苦しみを受けている俺たちのことだって解放できるはずではないか。どうしてそれを実行しないのか」という詰問にも似た発言です。

でもよくよく考えてみると「救ってみろ」という言葉は「試す」言葉ですね。それは、十字架にかけられたイエス様に宗教家たちが投げかけた「お前が神の子なら、十字架から降りてこい」と語った心と同じです。「できるものなら、やってみろ」というあざけりと不信の言葉です。イエス様は、それに対して反論をなさいません。

2)「自己認識」と「信頼」

いっぽう、もうひとりの罪人は、もうひとりの罪人の発言を受けてこう言います。

40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。

41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」

この罪人は、いわば身の程を知っています。自分は罪をおかしそれに伴う罰を受けていることを、受け入れています。自分の罪がこの十字架へと追いやったことを自分の中では「ほぼ当然」と理解しています。それは前に出てきた犯罪人の心とは違っています。そして、イエス様に対しても尊敬を抱いています。

41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。

理不尽な刑罰に対して、それをしっかり受け止めているイエス様への畏れ、信頼のようなものを彼は抱いています。

自分とは圧倒的に違う次元に生きている存在だとイエス様のことを認めているのです。

3)「あなたは今日わたしと一緒に」

その犯罪人はイエス様に向かって初めて声をかけます。

それは希望を表明する信仰告白であり、

自分は御国に入れる資格もなく、それを要求できる立場でもないので思い出して下さるだけで十分ですという控えめな希望の告白です。

42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。

ところがイエス様からの言葉は、驚くべきものでした。

43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。彼のこの世の人生が終わったら、「すぐにイエス様と一緒にイエス様のおられるところに居ることになる」という約束でしたから。

私たちは、誰でも「死」については不安や迷い、おそれを抱いています。程度の差こそあれ、何か違和感を感じています。それは当然のことです。というのも、私たちは生きている間、実際に「死」を経験していないからです。だからこそその不安があり、おそれはあります。それは当然のことです。

ただ、この十字架のエピソードにあるように十字架につけられ、苦しみにあえぎつつ、あと数時間で死を経験するであろうこの犯罪人が「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」というイエス様の言葉を直接耳に出来たことの感動はどれほど大きかったことだろうと思います。

そして、そのエピソードを教えられている私たちは、本当に苦しい時この出来事を思い出して、この時のイエス様の答えをしっかりと心の中に語りかけられていることを自覚できたら素晴らしいと思います。

「今日、あなたはわたしと一緒に楽園にいる」
死の床で聞けたらうれしいし、実は、私たちは毎朝、毎晩、この言葉を心に止めて置くことが重要なのだと思うのです。
「死」がいつ来るのか、私たちにはさっぱりわからないからです。

このイエス様からの呼びかけは、決して「当たり前」のことではありません。神はわたしを救う義務がある、とは言えません。でも、憐れみ深い神様は、喜んで「思い出してください」と願う私たちを身元に引き寄せてくださいます。

さらにいえば、このイエス様の招きの言葉を心にしっかり留めることができた
ら、生きていても、死んでも、私たちはイエス様のいるところ「御国」を経験し
ながら存在できるのだということにも通じます。

私たちはイエス様を信頼した時「御国の民」「神の家族」に入れてもらえてい
るからです。

最初に発言した犯罪人がどうなったのか、わかりません。

でも、もしかすれば、もう一人の発言を聞いて、「わたしもよろしく」
と願ったかもしれません。

私たちは神様に命令することはできません。

でも、憐れみを求め、祈ることはできます。

「主よ、憐れんでください」という心で今月も前に進みましょう。

* *

Youtube での映像はこちらです。

<https://youtu.be/5tpriqZg8qk>